

家族グループの意思決定が従来の児童保護手続きよりも良いか悪いかを示すエビデンスはない



エビデンスベースの質が低く、明確で一貫した肯定的な効果が見られないことは、家族グループの意思決定がソーシャルワークの実践で享受するサポートとは異なる。

このレビューの目的は何か？

このキャンベルの系統的レビューは、児童虐待に取り組むための家族グループの意思決定の有効性を評価している。4カ国15の研究からのエビデンスを要約する。ほとんどの研究はアメリカで行われたものである。

家族グループの意思決定は、子どもを保護し、家族を支援するための最善の方法についての意思決定に用いられる。それは、これらの決定に家族、拡大家族、および家族の周りのコミュニティの人々を、関与させる。自主的な会議のファシリテーター、専門家から離れたプライベートな家族の時間、家族計画の優先順位付けが特徴である。本レビューでは、このアプローチを支持するエビデンスベースは質が低く、従来のアプローチよりも良いか悪いかという明確な発見がないことが分かった。

このレビューの目的は何か？

子どもの虐待は、被害者の健康と幸福に生涯にわたって影響を与える世界的な問題である。虐待を受けた子どもの発見、調査、介入の効果的なシステムについては議論が続いている。

本レビューでは、子どもの安全、(子どもの生活状況の)持続性、子どもと家族の幸福、意思決定プロセスに対するクライアントの満足度の観点から、家族グループの意思決定を正式に利用することの有効性を評価する。

どのような研究が含まれているか？

対象となった研究は、児童虐待の調査対象となった0～18歳の児童・青少年に関するものである。研究は、治療群と対照群を作成するために無作為割り付けを使用している必要があり、また、同じ時点でグループが評価された並列追跡調査である必要がある。

児童虐待の調査またはサービスの過程で使用された家族グループの意思決定のいかなる形態も、家族、親族、地域社会のメンバー、および専門家を招集するための協調的な努力、および家族中心の意思決定に焦点を当てた、子どもの安全と福祉のための計画を開発するために協力して働くことを意図した会議を含む場合には、適格な介入とみなされた。



このレビューはどの程度最新か？

レビュー執筆者が2019年6月までの研究を検索した。

キャンベル共同研究とは何か？

キャンベル共同計画とは、系統的レビューを公表する、国際的、任意的、非営利の研究ネットワークである。本組織は、社会科学や行動科学の領域における取り組みのエビデンスを要約し、その質を評価している。本組織の目的は、人々のより良い選択とより良い政策決定を支援することである。

この要約について

本要約は、McGinn, T, Best, P, Wilson, Jらによる”Family group decisionmaking for children at risk of abuse or neglect”に基づいている。(A systematic review. *Campbell Systematic Reviews* 2020; 16:e1088. <https://doi.org/10.1002/cl2.1088>.)

この要約の作成のためのアメリカ研究機関からの財政支援に感謝の意を表す。



AMERICAN INSTITUTES FOR RESEARCH®

レビューの著者は、18の研究サンプルを含む15の研究からの知見を提供する18の適格な研究報告を発見した。そのうち4つの研究は無作為化比較試験であった。

4件を除くすべての研究は米国外で実施されたもので、カナダが2件、スウェーデンが1件、オランダが1件であった。

このレビューの主な知見は何か？

全体的に、家族グループによる意思決定は従来の治療と比較して有意な利点があるとすればほとんどなく、エビデンスベースの研究の質は全般的に低い。

4件の無作為化比較試験では、虐待の継続、子どもとの再会、在宅ケアの維持、支援サービスへの関与、社会的支援に有意な効果は認められなかった。

準実験研究では、家族の再統合については家族グループの意思決定が有利であることが統計学的に有意に示されたが、その他の結果については有意な結果は得られなかった。いずれの場合も、研究間の効果にはかなりのばらつきがある。

レビューの結果は何を意味するのか？

エビデンスベースの質が低く、肯定的な効果の明確な一貫した所見がないことは、家族グループの意思決定がソーシャルワークの実践で享受している支援とは相反するものである。しかし、これらの知見は、このアプローチを破棄するために用いられるべきではなく、むしろ、エビデンスベースを強化しつつ、モデルに起こりうる欠点の原因を特定するために用いられるべきである。

この断絶は、アプローチの理論的な魅力によって説明される可能性がある。モデルを完全に実施できないのは、計画の段階に焦点が当てられているが、その計画の実施には焦点が当てられていないことや、約束された家族の支援が期待されていないこと、あるいは、ソーシャルワーカーが意思決定を家族に委ねることに消極的であることに起因している可能性がある。

故に、より多くの研究が必要である。研究のデザインが、このトピックの研究で起こりやすい多くのバイアス、特に選択バイアスを考慮に入れたものであることが重要である。